



# epoch

エポック No126 号

～千代田区生涯学習推進委員会議だより～

令和5(2023)年5月発行



## 第14期第4回 概要報告

令和5年3月14日、第4回生涯学習推進委員会議が開催されました。令和4年度・5年度の2年間で1期として継続議論中の今期のテーマおよび運営体制について事務局から提案、委員の意見交換が行われました。以下、概要をお伝えいたします。

### 1. 今期のテーマについて事務局から説明

(1) 令和5年度検討テーマと運営体制について、令和4年度、3回の議論で集約されてきた2つのテーマと委員からのご意見を勘案し、今期後半会議の検討テーマと進め方の案をお示しました。

#### ① 部活の地域移行に伴う生涯学習のあり方

一義的には教育委員会の所管。  
区長部局の生涯学習・スポーツ課のかかわりが限定的となる

#### ② ちよだ生涯学習カレッジの今後のあり方

地域間ネットワーク強化の人材育成ツール(手段)として設立。区と運営事業者で整備する必要がある。

#### 《事務局からの提案》

第14期生涯学習推進委員会議「分科会」を設置し、各委員が所属して議論を深める  
全体会「生涯学習推進委員会議」  
第1分科会「(仮称)部活動の地域移行に伴う生涯学習の役割」  
第2分科会「(仮称)千代田区の特性を踏まえた人材育成のあり方」

《意見交換》 ○=委員 ●=事務局



#### 【分科会について】

##### ●事務局より

全体会は全体会として「今後の生涯学習をどうするのか」共有しながら、深掘りのための2つの分科会をご提案したが、分科会でなく全体会で進めるのがよろしいか委員に検討いただきたい。

○令和4年度は「生涯学習とはそもそも何か」「区の特性を踏まえたテーマとやり方」について根本的な議論がされてきたが、このあと分科会の議論の回答だけを出して今期終了となる懸念がある。

○全体会が分科会の報告とディスカッションのみとならない舵取りが必要である。

#### 《第1分科会の案について》

#### ① 部活の地域移行に伴う生涯学習のあり方

○第1分科会テーマがわかりにくい。総論を同時進行する必要がある。提言書に向けた時間的な制約がある中、2025年までには区の方針をしめさなければならない。

○実体験から。昌平コミュニティスクール団体のメンバーとして昌平小学校吹奏楽部・金管バンドクラブでボランティアで指導している。小・中の部活で吹奏楽をやっても、大体の人が大学を終えると受け皿がなく音楽をやめてしまう。ここに地域の生涯学習の1つの形、受け皿となれるのではないか。

楽器はお金も場所も指導者も必要であり、小・中学校の部活動経験から大人になっても吹奏楽を好きでいてくれる人が地域にいる。区と連携することで受け皿が長く続くのではないか。

○地域移行にともなう生涯学習の役割とは、誰の役割なのか。子どもに関わる大人か団体の構成員か。誰のための生涯学習か明確にするべきではないか。

●[事務局]教育委員会も検討しているが、誰が担って将来どうしていくのか今後の検討となる。

○生涯学習の役割としては支援体制の整備と考えるが、千代田区の小・中学校に本当に必要なのか検証する必要がある。

○学校教育と生涯学習・社会教育のすみ分け、千代田区生涯学習の基盤をどう整備していくかを出発点とするべきではないか。

○部活動で完結せず、地域や生涯学習として一貫して行われることで、大人になりシニアリーダーとして子どもを指導する循環の仕組み。組織的に整備するのは難しいが、ここで議論することなのではないか。

○文化部と運動部の性格の違いからさらに2つにわけると必要があるか。ランドデザインを示し、誰が、どこが軸になるかを含めて考える必要がある。

○学校教育の立場から、「部活動」は子どもの生き方を作っていく段階としてかなりのウェートを占める。学校教育で興味・やりたいことを見つけた児童・生徒に「千代田区ではこういう活動がありずっと続けていけるのだよ」と教員が話していけることで、学校教育と生涯学習、部活動と生涯学習が結びつき、動きをつくっていけると考える。

○スポーツの立場から。種目を趣味で楽しみたい人の集まりの側面が多分にあり、部活動の地域移行によって急に指導を期待された場合、ギャップを感じることはないか。子どもや指導者、区民の安全が担保されたうえで部活動や生涯学習を続けたり、子どもが大人になって指導する側に行けたりするような議論を望みたい。

○ちよだ生涯学習カレッジは指導者研修の場として可能性があるのではないか。評価の問題のかかわりを考えていく必要がある。

○千代田区で「どう学び続けていくか」。私達はそのために具体的にどういう資源を育てていくかと考えていくと、テーマに共通する部分はあるのではないか。

#### 「第2分科会の案について」

#### ② ちよだ生涯学習カレッジの今後のあり方

○ちよだ生涯学習カレッジのありかた、役割や運営を明確にするための人材育成の議論となる。

○ちよだ生涯学習カレッジ、区が運営する九段生涯学習館の課題解決を軸として、生涯学習のあるべき姿に基づいた形で手直ししていく議論になるのではないか。



#### 「分科会の開催・展開について」

●事務局より

本会議プラス分科会で回数頻度を上げたり、分科会でなく全体会として進めるなどの運営体制と、委員の意思で所属を選択していただきたい旨提案がありました。

○報告書に向け、時間と分科会開催回数が間に合わないのではないか。

○同日に分科会でバズセッション、議論の中身を全体会で報告・ディスカッション、と同時並行ではどうか。

○例えば第3分科会として、区の特徴である大学・官公庁・企業の多さから、社内構造や企業内構造、団体内構造を活用して区民が参加するなど面白い試みではないか。どの企業も地域のなかで社会的市民としてよい企業を目指している。他の委員でさらに第4分科会のテーマを持つ方がいれば提案があってもよいのではないか。

○企業との連携には慎重さが求められる側面もある。

○企業の立場から。現在、リスキリングのコンソーシアムという形で、各企業の連携体のようなものが出来ている。1社特定の研修でなく、幅広く市民に提供できる体制づくりが進んでいる。第3分科会の形、あるいは具体的なステップを検討できるとよいのではないか。

○企業・大学等を巻き込んだ人材育成に関しては、千代田区の特性を踏まえた第2分科会で可能ではないか。

●【事務局】分科会、今回さらに第3、4分科会とさまざまなご意見、今後の生涯学習の位置づけ、あり方、として次回の全体会でお示ししたい。



## リレー随筆

### 生涯学習の礎を

傳田 学

小学校の新学習指導要領が全面実施となり、4年目を迎えました。「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」「学びに向かう力・人間性等の涵養」が今後の新しい時代に必要であり、それらを「主体的・対話的で深い学び」の視点から進めていくために、教職員一同、授業改善に奮闘する日々を過ごしています。

常々考えるのは、学びに向かう力や主体的という言葉についてです。意味としては「自分から学習に取り組もうとすること、活動全般への積極的な姿勢」を示していることは明白なのですが、では学習活動でどのように高めていくのか、ということが悩ましいほどに難しい…。やってみよう、積極的に発言してみよう、と教師が勧めるだけでは、子どもの意欲を向上させることはできません。

そこで出てくるのは、『好きこそものの上手なれ』ということわざです。皆さん経験があるように、人間誰しも、楽しいことや自分の興味や関心が高いことには、夢中になって時間を忘れて取り組むものです。義務教育段階で、「楽しそうだな」「やってみたいな」「もっと知りたいな」という知的な好奇心と学習意欲が高まる学習活動を創意工夫し、子どもの中の興味の引き出しを増やすことで、生涯にわたって学び続ける態度の礎を築くことが何よりも大切です。毎日ワクワクするような学校生活を過ごし、自分が好きなことをずっと追求し続ける『生涯学習人』が増えるよう、精一杯頑張ります。

#### 【事務局より】

第14期第4期目のエブックをお届けします。傳田委員、岡田委員、村田委員には、年度変わりのご繁忙の中、リレー随筆をご執筆いただき心より感謝いたします。毎回活発な意見交換が行われる生涯学習推進委員会議。令和5年度、次回エブックも、どうぞよろしくお願いいたします。

## 「頭と心と体がさびないように」

岡田 孝子

なんと102歳で一人暮らしのおばあちゃん。規則正しい生活の中、三度の食事を自分で作り、毎日欠かさず新聞を隅から隅まで読むことが日課。さらに、漢字の問題を解く、電動シニアカーで買い物に出かけ、地域のコミュニティにも通っている。そんな102歳のおばあちゃんの様子がテレビで紹介されていました。私は、102歳とは思えない活動的な様子にとっても驚きました。気になってその方について調べてみると、地元の新聞や他のメディアでも話題になっている有名な方でした。その方がインタビューの中で「頭は使わないとダメになるの」「体も頭も気持ちも、使い続けているとさびないの」と話されていたことがとても印象的でした。

昨今、少子高齢化にともない平均寿命と健康寿命との差を短縮することの重要性が問われています。その差を短縮するためにはさまざまな問題がありますが、まずは日常での生活習慣や生活の質(QOL)の向上、社会環境の充実が不可欠であると考えられます。

少子高齢化のなか、健康であり続けるためには、頭を動かし学び続けること、積極的にコミュニティのある場所で進んで体を動かし続けることが大切であるということをも102歳の方から身をもって教えられたように感じました。

受け身になりがちな日常。年齢を重ねても生き生きとした人生を過ごせるように積極的に生涯学び続け、頭と心と体がさびないように過ごしていきたいと思います。

## ほんの少しの勇気で得られた事

村田 直子

現在社会人の次男は、中学生になった時に剣道を始めました。6学年離れている長男が地元の剣道会に通っているのを見て、自分もやってみたい！と思ったそうです。

障がいがありサポートが必要な彼が周りと自分を比べ、「どうせ自分は何もできない」と半ば諦めていたような頃だったので、勇気を出して挑戦したいと意思を示してくれた事が嬉しかった反面、体調不良を起こしやすくて心配でもありました。それでも入部以降は部活と剣道会の練習をよく頑張っていたと思います。

そんなある日、長男もお世話になり、次男も部活と剣道会の両方で指導を受けていた先生から「彼の良いところはね、素直できれいな剣道が出来ることだよ。これからも素直な剣道が続けて行って欲しい。継続は大事だからね」と声を掛けて頂きました。障がいのあるなしではなく、次男の事を見て掛けて下さった言葉はあの時の景色と一緒に今でも心にしっかりと残っています。

その後も多くの支えとご指導のおかげで、次男は高校二年生の時に三段を取得できました。残念ながら、三段挑戦の前に先生は急な病で亡くなられ、ご報告とお礼をきちんとお伝え出来なかった事が残念でなりません。

次男は社会人になった今も剣道が続けられています。自分もやってみたい！と望み、勇気を出した事が、生涯続けられる学びの一つを得られるきっかけになり、その後の人生にも繋がっていると思っています。毎日忙しく過ごしていますが、これからもゆっくりでいいから、自分の歩みを止めないでいて欲しいと願っています。

### 【編集／発行】

千代田区 地域振興部 生涯学習・スポーツ課 〒102-8688 千代田区九段南 1-2-1  
TEL : 03-5211-3632 / FAX : 03-3264-1466 / Mail : shogaigakushuu@city.chiyoda.lg.jp